入選（低学年の部）

おじいちゃんありがとう

神奈川県　湘南白百合学園小学校　三年

天羽（あもう）　花織（かおり）

　私のおじいちゃんはすごい。私の心の中がわかるみたい。今日の朝ごはんは、パンがいいなと思っていると、かならずパンをやいてくれる。今日は荷物がおもいから、えきまでむかえに来てほしいなと思う日は、かいさつ口におじいちゃんがいる。どうして、おじいちゃんは私の考えていることがわかるのだろう。私だけでなくほかのみんなのこともわかるのかたしかめるために、弟に聞いてみた。

「おじいちゃん、ぼくのこと全ぜんわかってないよ。」

と、弟は言う。私の心の中だけがわかるみたい。ちょっとうれしくなった。おばあちゃんに聞いてみると、おばあちゃんは、

「おじいちゃんとかおちゃんは、い心伝心。」

と言う。い心伝心とは、じ書を引いてみると言葉にしなくても、考えていることがおたがい伝わることと書いてある。どうして伝わるのだろう。ママに聞いてみた。ママは、

「おじいちゃんは、いつもあなたのことを考えていてくれるのよ。」

と言った。ほっとした。おじいちゃんは、いつも私がこまらないように、わすれ物がないか、べん強でわからないところはないかと気にしてくれる。なわとび大会の前の日は、おそくまで、私のなわとびの練習を見ていてくれた。私が社会の地図記号をおぼえていると一しょにおぼえてくれた。それに私のくつが毎日ピカピカなのは、おじいちゃんが毎日、みがいてくれるからだ。それなのに私はおじいちゃんに、ありがとうを言えていない。毎日、してもらうことになれてしまっていた。

　い心伝心ならば、私もおじいちゃんの気もちがわかるようにならなければと思う。おじいちゃんがよろこんでくれることがしたい。明日は、おじいちゃんの七十才のおたん生日だ。私は、おじいちゃんとれん習した森の音がく家をふえでふこうと思う。それから、さい近、こしがいたいと言って、こしをおさえて歩いているので、こしをマッサージしてあげようと思う。よろこんでくれるといいなと、思う。これからは、今まで、してもらった分、ありがとうの気もちをこめて、おじいちゃんの気もちを考えていきたい。きっと、おじいちゃんはおどろくはずだ。どうして、かおりは、ぼくの考えていることがわかるのだとおじいちゃんに思ってもらえるまで、がんばってみようと思う。でもその前に、おじいちゃんにありがとうを言おう。おじいちゃん、これからもずっと一しょにいてね。